

石巻市と女川町の先見調査報告

ボーイスカウト日野4団／東京薬科大学 堀内馨士朗

4月3日

17時 日野市出発

4月4日

3時 いしのみなと教会到着 宮城県石巻市あけぼの2丁目9-3



6時 起床

7時 支援物資の仕分けと積み込み

- 現地の気温は1℃前後でした。この教会は津波の被害を受けておらず、電気ガス水道が使える。ここから100m 先が津波の被害を受けていた。寝袋で仮眠を取り、翌日に備えた。



- 種類やサイズ分けをし、車に積み込んだ。

8時 女川町役場 女川町地域包括支援センターに物資を届ける



- 避難所に向かう途中の女川バイパスから撮った様子。家の土台だけが残り、磯の香りが漂っていた。自衛隊によって道が整備され、通行できるようになっていた。
黄色く変色した木の高さまで津波がきたと考えられる。おそらく 15m 以上の高さである。



- ここには沢山の物資が届いており、食料は充分あった。大きな避難所には自衛隊がいるため、個人的な支援物資やサポートはいらないように思われる。炊き出しやシャワーもあるので、団体で支援に行く必要もない。
行政(自衛隊)が入っていると、ここに支援に行くことは難しいと考えられた。

10時 女川第二小学校と総合体育館に物資を届ける



- 避難所には段ボールが配られ、多少プライバシーが確保できるようになっていた。必要最低限の物資は手に入っているので、次の段階の物資やサポートが必要だと思われた。たとえば、生活用品や娯楽、心のケアなど。



11時 いしのみなと教会に戻る

13時 別の教会の泥かき



□ この教会は、
1m以上浸水し、壁面にはヒビが入っていた。床を掃除し、乾いたものを室内に運んだ。使えないものは処分場に持っていった。

15時 中学校に物資を届ける



要請されている物資は受け入れてもらえるが、余っているものは拒否されるようになってきた。4月から学校も始まるため、置き場にも困っていた。また、今までの受付は先生たちが行っていたが、市の職員に変わってきたため、対応が組織のように変化してきた。

18時 石巻中学校でボランティアの人と会う

19時 専修大学にあるボランティアセンターで奉仕している方に情報をもらう



専修大学には数百人のボランティアが集まっていた。大学生も登録することで簡単にボランティアに参加可能。仕事は、割り当てられた民家の清掃や物資の仕分けなどである。個人的に車で来ている人は、日中は自由に奉仕し、夜は全体ミーティングに出ている。ボランティアの登録は無料で、3日ごとにガソリンや食料の配給もある。

ここは大きな拠点のため、問い合わせするよりかは現地に直接行った方が良い。今回訪問した中で、一番自由に奉仕できる場所である。

21時 石巻市を出発

4月5日

4時 日野市に帰着